



校長室だより 20240913 NO.38

# 風廻る校庭

千歳台小学校長 寺村尚彦

## 人間の可能性の限界

オリンピックに引き続きパリで開催されていた、パラリンピックも、数多くの日本選手の活躍を見ることができました。2年前に千歳台小をゲストティーチャーとして来校してくださったブラインドランナーの和田伸也選手もガイドランナーの長谷部さんとともに出場し、5000メートルで4位、マラソンで9位という素晴らしい成績を残しています。かかわりのあった方の活躍を耳にすると、自分のことのようにうれしくなります。

オリンピックやパラリンピックでは、様々な競技で世界記録が生まれています。100メートル走の世界記録は、9秒58、日本記録が9秒59です。この30年ぐらいの間に各種目の記録はたびたび塗り替えられてきました。どこまで記録が伸びるのか、その限界は見当がつきません。このことは水泳競技など、時間や回数を争う競技に共通して言えることではないでしょうか。

パラリンピックについては記録だけではなく、装具や競技用の用具、ルールの工夫と開発によって、多様な種目が行われていることがわかりました。パラリンピックの始まりは、戦争によるけがで脊柱損傷になった人々のリハビリから始まったという資料を見たことがあります。しかし、現代のパラアスリート皆さんのが抱えている困難も種々多様です。そして競技の在り方も実に多彩です。装具や用具を利用して成り立っている競技もあれば、陸上競技や水泳の種目の中には、ありのままの姿で競技を行っているものもあります。その姿は、人間の可能性は無限に広がっているのではないかとさえ思われます。

パリ大会で注目したのは、男女混合の団体競技や種目が増えていることです。特に、車いすラグビーでは、試合中に男女の選手が直接接触する場面もありました。ルールや試合方法、用具などを工夫することで、成り立っている車いすラグビーは、これから「共生社会」とよばれる、人々のかかわり方のモデルの一つになりえると感じました。パラリンピックの種目には、このようなスタイルの競技がたくさんあるよう気がします。オリンピックに限らず、スポーツの世界では、性差に関しては様々な課題があることも事実です。一概に論することはできませんが、今後、大きな進展を期待したいことでもあるともいえます。

## 記念撮影

千歳台小は、今年度45周年を迎えてます。昨年度は、川場小交流40周年の年でした。

かつては、周年行事は、10年ごとに実施していました。そういう意味では、周年行事は盛大に実施するのが恒例で、学校だけでなく、保護者・地域の皆様のご理解とご協力が欠かせないものでした。現在でも、20周年では、式典をはじめ、祝賀会・記念集会などを実施しています。

今年度は、40と50の間の45周年です。10年おきでは在校のタイミングによっては、周年行事を経験できない児童が生まれますが、5年おきにすることで解消することができます。この年度に1年生に入学した子ども達は、6年生で2回目の周年行事を迎えます。

45周年は、めばえの会から援助していただく記念品と子ども達が企画した記念集会が記念行事となります。撮影した写真を使い、記念品を作成します。出来上がりを楽しみにしてください。

